3　調査結果の要約

◇定住意向、健康等 問１～問４

・現在住んでいる住宅は「一戸建て持ち家（家族名義を含む）」が 90.0%と９割を占める。
・定住意向は 70.3%と７割を占めており、移転意向は「市内の他の場所」、「市外」とも１割未満。
　年代が上がるほど定住意向が高い。
・適正体重を「知っている」は 77.1%と約８割を占めている。年代が上がるほど「知っている」割合が高い。
・体重コントロールは「している」が過半数となっている。「している」割合は男性より女性が高く、
　また年代が上がるほど高い。

◇現在の、裾野の取り組みについて 問５～問６

・第三次裾野市総合計画に位置づけられている 51 施策（38 項目）に対する満足度・重要度は、「健康・福祉・教育」分野では健康に関する項目は“満足”の割合の高い項目が多く、福祉や教育に関する項目は“不満”の割合が高い。満足度の平均は 0.08。重要度の高い項目が多く、平均重要度は 1.32。
・「自然・環境・都市基盤・安全」分野では自然や環境に関する項目は、満足度が高いが、都市基盤に関する項目は満足度が低い。満足度の平均はー0.10。重要度は非常に高く、平均重要度は 1.35。満足度は高くないが、重要度が高い項目が多く、重点的に改善・改革を進める必要のある分野といえる。
・「地域産業」分野は施策４分野の中で最も平均満足度が低い分野である。満足度の平均はー0.29。重要度も施策４分野の中で最も低く、平均は 0.92 と１を下回る。
・「市民主体・行財政」分野は全体的に満足度の低い分野である。満足度の平均はー0.16。特に『健全な財政運営』は「とても重要」が過半数を超えて高く、重要度は 1.51。
・市政全体の満足度は“満足”が“不満”を大きく上回り、スコアは 0.08。満足度は 40 代、50 代に低くなるものの、おおむね年代が上がるほど高い傾向となっている。

◇インターネット、広報について 問７～問９

・インターネットを“利用している”人は４割となっている。“利用している”割合は女性より男性が高く、また年代が低いほど高い。
・インターネットの利用頻度は「週に５日以上」が４割以上で、１日当たりの利用時間は“１時間未満”が過半数を占める。利用目的は「情報の検索」、利用媒体は「パソコン」がそれぞれ９割以上を占める。
・パソコンの所持台数は「１台」が 58.9%と６割で「２台以上」を大きく上回る。
　利用回線は「ＢＢ（ＡＤＳＬ）」、「ＣＡＴＶ（ケーブルテレビ）」が３～４割となっている。
・裾野市のホームページの閲覧経験は、「見たことがない」が 59.8%と６割を占める。おおむね年代が低いほど“見たことがある”割合が高い。
・裾野市のホームページに期待する情報は、「公共施設の利用方法」、「行事やイベント」、「地域や生活」などが高い。ほぼすべての項目で、おおむね年代が低いほど割合は高い傾向である。

◇広報無線放送について 問 10～問 12

・広報無線で注意して聞く情報は、朝は「今日の行事予定」、夕方は「くらしの情報」、夜は「明日の行事予定」など。ほぼすべての項目でおおむね年代が上がるほど割合が高い。

・時報の感想は、「現状通り流す」が８割弱を占める。「現状通り流す」は 50 代まで年代が上がるほど低くなり、60 代以上で高くなる。
・広報すそのでよく見る情報は１日号では「お知らせ（広域情報コーナー）」、「お知らせ（募集・催し・お知らせ等）」など。15 日号では「お知らせ（募集・催し・お知らせ等）」、「表紙」など。１日号、15 日号とも、ほぼすべての項目で 40 代の割合が低い。

◇ボランティアについて 問 13～問 14

・ボランティアに興味はあっても活動している割合は低い。活動している割合は、60 代以上で１割以上となっている。
・裾野市社会福祉協議会の認知度は、「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が過半数を占める。年代が上がるほど認知度は高い。

◇障害者福祉について 問 15～問 21

・心身に障害のある人たちに対する関心は、“関心がある”割合が６割強。
“関心がある”割合は、男性より女性が高く、また年代が上がるほど高い。
・日常的に心身に障害を持つ人に対して持っている意識は、「家族が大変だと思っている」が最も高く、７割を占めている。
・福祉に関する言葉の認知度は、上位３項目が８割前後となっている。高齢者福祉にも関わる言葉の認知度は高いが、障害者福祉に関する言葉の認知度は多くが半数に満たない。認知度はほぼすべての項目で男性より女性が高く、年代が上がるほど高い。
・福祉に関する制度や動きについての情報を取得する手段は、「テレビ、ラジオ」、「新聞、雑誌、本」、「県や市の広報紙やパンフレットなど」の３項目が主な手段と考えられる。
・障害のある人といっしょに活動した経験は「ない」が約６割を占める。
活動の場面は「職場」や「学校」。介助に対する抵抗感は比較的少ないとみられる。
活動経験のない理由は、“障害のある人を身近に感じられない”のが大きな理由とみられる。
・障害のある人に対する理解を深めるために必要と思うことは、「学校教育での障害者理解のための教育の推進」が過半数に達して最も高い。
・障害のある人に住みやすいまちをつくるために重要と思われる活動は、窓口の整備や手続きの簡便化、職場の確保などとなっている。

◇男女共同参画について 問 22～問 26

・共働きであるかは、「はい（共働き）」が２割強、「いいえ」が４割弱となっている。「はい（共働き）」は 40 代、50 代で目立って高い。
・「男は仕事、女は家庭」の考え方には、“反対”が“賛成”を大きく上回っている。年代が上がるほど“賛成”の割合が高い。
・家庭内の役割分担の現状は、いわゆる性別役割分担が顕著であるが、理想の役割分担は、「男性女性ともに仕事、家事は男性女性で分担」が最も高い回答となっている。理想の役割分担は、性別、年代別による違いが明確である。
・男女の地位の格差が感じられる分野は『職場』、『社会通念やしきたり』、『政治の場』、『社会全体』で、６～７割が“男性優遇”と回答。

◇裾野市のアピールポイント・観光について 問 27～問 30

・他の地域の人に自慢できると思うものは、「ヘルシーパーク裾野」、「民間レジャー施設」、「深良用水」、「運動公園」など。ほとんどの項目でおおむね年代が上がるほど割合も高い。

・観光ボランティアへの参加意向は、“そう思わない”が過半数を占める。“そう思う”割合は、女性より男性が高く、またおおむね年代が低いほど高い。

・観光地として充実すべきポイントは、「富士山のビューポイント」、「ヘルシーパーク裾野などの健康施設」、「便利で快適な交通網」、「豊富な水資源」など。

◇スポーツについて 問 31～問 37

・スポーツや運動の好き嫌いは“好き”の割合が６割以上となっている。“好き”の割合は、男性が女性を大きく上回っている。

・スポーツや運動のクラブなどへの入会状況は、「いいえ」が約８割を占める。「はい」は低い年代と高い年代で２割前後と比較的高めになっている。

・健康意識は、“健康”が７割を占める。“健康”の割合は、70 歳以上に次いで 40 代で低い。

・スポーツや運動の頻度は、「ほとんど運動していない」が約４割となっている。「ほとんど運動していない」は女性が男性を大きく上回っている。

・行政などが行うスポーツ行事等の認知度は、「いいえ」が過半数で「はい」を大きく上回る。「はい」はおおむね年代が上がるほど割合も高い。

・継続的に行ってみたいスポーツや運動の有無は、「はい」と「いいえ」が半々となっている。「はい」はおおむね年代が上がるほど割合は低くなる。

・健康維持のための運動の必要性は「思う」が９割とほとんどとなっている。しかし、「思う」は 20 代と 60 代以上で９割を下回っている。

◇ヘルシーパーク裾野について 問 38～問 39

・ヘルシーパーク裾野の利用経験は、「はい」が過半数を占めて「いいえ」を上回る。「はい」は男性より女性が高く、また年代が上がるほど高い。利用頻度は「過去に１～２回」が最も高い。

◇地震防災（東海地震）に関する意識について 問 40～問 44

・東海地震について知りたい情報は、「住民への情報の伝達方法」と「発災後の援助、援護」が過半数となっている。

・現在ある食糧で家族が生活できる日数は、「３日～６日程度」と「１日～２日程度」が４割前後となっている。「７日以上」と「３日～６日程度」を合わせると、年代が上がるほど割合も高い。

・自宅は、「昭和 56 年以前の木造住宅」が約４割となっている。今後の自宅の耐震化については、「今のまま」が３割、「耐震補強をしたい」と「新しい住宅を建てたい」が２割となっている。耐震診断などを行うための助成制度の認知は、「知っている」が７割を占める。

・地震に備えた家具の固定状況は、「特に固定していない」が６割弱を占める。「ほとんどの家具等を固定してある」はおおむね年代が上がるほど割合も高い。

・避難状況は、「市で指定した避難地に避難する」が６割となっている。「市で指定した避難地」は 70 歳以上で半数を下回る。